



十中だより 10月号

令和7年10月9日
文京区立第十中学校
校長 南 英昭

引継ぎの時

10月に入り、少しずつ涼しくなり秋の気配が感じられるようになってきました。4月から始まった新年度も半年が過ぎ、学校では代替わりの時期になっています。部活動では、3年生の活動が一段落し、2年生が部の中心となって活動しています。生徒会では、役員が替わり、引継ぎ式を終え後期の活動になっています。それぞれの委員会の委員長等も2年生になり3年生からバトンが引き継がれました。

陸上競技での引継ぎ

引継ぎのバトンといえば、真っ先に陸上競技のリレーを思い浮かべます。

9月13日(土)から9月21日(日)までの9日間に陸上の世界大会が、国立競技場(東京都新宿区)で開催されていました。その期間は、毎日テレビ中継があり世界のトップ選手の驚異的なプレーを目にした人も多いのではないのでしょうか。34年前に東京で行われた世界陸上では、日本はマラソン以外で世界と互角に戦える選手はほとんど存在せず、カール・ルイスなど世界のトップ選手の走りを見て、驚いた記憶があります。しかし、今大会は、日本選手も決勝に出る選手も出てきて、世界と互角に戦える選手も出てきました。たくさんの競技の中で、私が一番注目していた種目は、男子の100m×4のリレーです。個人での100mは、予選突破も難しい短距離種目ですが、4人で行うリレーでは走力以外の部分で技術を発揮し、過去の世界選手権やオリンピックでもメダルを取ったこともある種目です。走力では、他の強豪国には勝てないが、バトンパスの技術を磨きタイムを縮めてきました。

では、どのようなバトンパスをすればよいのでしょうか。理論上は単純で、前の走者のスピードを維持したまま次の走者がバトンを引き継ぐことが大切です。高い所でバトンを渡したり、低い位置で下からバトンを渡したりする方法など技術的な部分はたくさんありますが、簡単に言うとテイクオーバーゾーンの前後を含めた40mをいかに早く通り過ぎことができるかがバトンパスの優劣になります。日本代表は、二人で息を合わせてスピードを維持し、確実にバトンを渡し、40mの時間の短縮を目指し練習してきたそうです。このゾーンの時間を 0.4秒縮めれば、バトンパスは3回あるので1秒以上縮まります。そうすれば、今回6位だった日本も理論上、1位のアメリカよりも速くなります。走力を高め、バトン技術を磨くことでいつか世界一になる日が来るかもしれません。

引継ぎで大切なのは

これをいろいろな「引継ぎ」に当てはめてみるとどういうことになるでしょうか。

引継ぐ瞬間も大事ですが、その前後、特に両者の**活動が重なっている時が大切**になります。全く関わっていなかった人に引継ぐことは、とても大変です。引継がれる前から準備し、**一緒に活動しているときに多くを吸収しておく**ことが必要になります。これは、家業を継いだり、役職を受け継いだりするときなど多くのことに共通することです。また、バトンを渡した側も完全に終わりではなく、しばらくは見守り、時には支援することで引継ぎは強固になります。

この時期は、様々な引継ぎがありますので、良い引継ぎを意識して活動に臨んでくれることを期待しています。

生徒会引継ぎ式

9月19日に生徒会役員選挙立会演説会が行われました。学校全体や生徒全員のことを考え、高い志をもった5人が立候補してくれました。そして、生徒会役員選挙を経て、5人の新しい生徒会本部役員が決定しました。9月29日に生徒会引継ぎ式が開催され、旧本部役員から新本部役員へ正式に引継ぎが行われました。生徒会の中心が、3年生から2年生へバトンタッチされた瞬間です。生徒会本部役員だけでなく、各種委員会活動も2年生が中心になります。今がまさしく「リレーのテイクオーバーゾーン」の時期で一番難しく大切な時です。本校の生徒会も円滑な引継ぎを行い、先輩たちから受け継いできた伝統を守りつつ、さらに発展させていってください。



旧本部役員



新本部役員

教師の日!?

10月6日(月)、サプライズな企画がありました。放課後、生徒会役員の呼びかけで体育館に全校生徒と教職員が集合しました。生徒会役員の司会が突然、「教師の日です」と宣言し、「先生方は壇上に上がってください」とのかけ声で教職員は壇上に上がりました。教職員のほとんどは何も知らされてなく、壇上から見る「あ・り・が・と・う」のメッセージをみて少しずつ謎が解けてきた感がありました。「教師の日」はユネスコが1994年に定めた10月5日ですが、今年は日曜日だったため翌日の月曜日にこのような場を設定してくれたそうです。PTAの協力もあり、教職員に花束(かすみ草)と記念品が手渡されました。その後、教職員からお返しの言葉や感想が語られました。卒業式以外では感謝の言葉をもらうことがめったにない教職員にとって、このようなお互いに感謝を述べ合う貴重な機会は、とてもありがたく感じています。今後も、このような温かい十中の雰囲気을大事にしていきたいと思っています。

